



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年2月14日

上場会社名 株式会社RVH 上場取引所 東
 コード番号 6786 URL http://rvh.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)和田 佑一
 問合せ先責任者 (役職名)管理本部長 (氏名)吉田 淳 (TEL)03-4579-9755
 四半期報告書提出予定日 2020年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	42,207	△5.9	2,625	84.4	232	—	435	—
2019年3月期第3四半期	44,877	12.8	1,424	△57.2	△897	—	△795	—

(注) EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

	税金等調整前 四半期利益		親会社株主に帰属 する四半期純利益		1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	△1,076	—	△2,267	—	△117.31	—
2019年3月期第3四半期	△1,953	—	△2,745	—	△142.02	—

(注) 包括利益 2019年3月期第3四半期 △2,745百万円 (—%) 2020年3月期第3四半期 △2,266百万円 (—%)

	自己資本 四半期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	%	%	%
2020年3月期第3四半期	△29.9	0.6	0.6
2019年3月期第3四半期	△25.3	△1.0	△2.0

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第3四半期	76,995	6,465	8.4	334.49
2019年3月期	78,511	8,695	11.1	449.85

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 6,465百万円 2019年3月期 8,695百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	56,300	△4.2	250	—	490	—	△2,300	△118.98

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

1株当たり当期純利益の計算上用いた期中平均株式数は19,329,960株であります。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 ー社(社名) ー、除外 ー社(社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期3Q	19,330,560株	2019年3月期	19,330,560株
2020年3月期3Q	600株	2019年3月期	600株
2020年3月期3Q	19,329,960株	2019年3月期3Q	19,329,960株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(会計上の見積りの変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に、緩やかな回復基調が続いておりますが、通商問題や中国経済の動向等、海外経済の不確実性の影響が懸念される等、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

美容エステティック市場におきましては、消費税増税による個人消費の落ち込み、サービス・製品の多様化による業種・業態を超えた競争の激化に加え、労働需給の引き締めにより人件費の高騰等により、経営環境は引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当第3四半期連結累計期間における当社グループの経営成績は、売上高42,207百万円(前年同期比5.9%減)、EBITDA2,625百万円(同84.4%増)、営業利益232百万円(前年同期は営業損失897百万円)、経常利益435百万円(前年同期は経常損失795百万円)、税金等調整前四半期純損失1,076百万円(前年同期は税金等調整前四半期純損失1,953百万円)となり、法人税等合計1,190百万円を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失2,267百万円(前年同期は2,745百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

	報告セグメント				調整額		四半期 連結損益計算書 計上額	
	レディスサービス事業		その他事業					
	金額 (百万円)	増減率 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
セグメント売上高	41,333	△0.7	2,738	△54.7	△1,863	—	42,207	△5.9
セグメント損益	289	—	△83	—	26	—	232	—
(参考)EBITDA	2,623	101.9	△29	—	31	—	2,625	84.4

※1 セグメント売上高には、内部売上高を含めております。

※2 セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

※3 EBITDA=セグメント損益+減価償却費+のれん償却額

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

なお、従来「メディア・コンサルティング事業」、「システム開発事業」として記載していた報告セグメントにつきましては、「メディア・コンサルティング事業」の量的な重要性が乏しくなったため、第1四半期連結会計期間よりこれらを統合し、「その他事業」として記載する方法に変更しております。

また、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報についても変更後の区分で記載しています。

1) レディスサービス事業

<美容脱毛部門>

ミュゼプラチナムブランドは、当第3四半期連結会計期間において「ながの東急百貨店」、「イオンモール奈良登美ヶ丘店」の2店舗をオープン、店舗統廃合により1店舗を移転、3店舗を閉店し、2019年12月末日現在の店舗数は191店舗(前年同期は177店舗)となりました。また、2019年11月より、自社初のビューティケアアイテム専門店「ミュゼショップ」を大丸梅田店にオープンいたしました。

マキアブランドは、当第3四半期連結会計期間において「青森浜田店」、「那珂店」の2店舗をオープンし、2019年12月末日現在の店舗数は120店舗(前年同期は93店舗)となりました。

2019年10月の消費税増税の影響、台風による一部店舗での休業等の影響等により、売上高が一時的に苦戦したものの、第2四半期連結累計期間までの増収増益効果及び広告宣伝投資の効率化等により、部門売上高は前年同期比102.0%、部門利益は1,019百万円(前年同期は△531百万円)で推移いたしました。

<エステティック部門>

たかの友梨ビューティクリニックブランドは、引き続き店舗収益確保のため店舗の統廃合を進め、当第3四半期連結会計期間においては2店舗をリニューアル、1店舗を閉店し、2019年12月末日の店舗数は78店舗(前年同期は83店舗)となりました。また、2019年11月より、新たにヒト臍帯血細胞順化培養液を配合した「TAKANUYURIスーパーセル美容液」の販売を開始いたしました。

部門売上高は、店舗統廃合による店舗数圧縮及び人材不足の影響により前年同期比89.8%で推移した一方、

人件費縮小、広告宣伝コストの削減等により、部門利益は△13百万円（前年同期は△91百万円）で推移いたしました。

＜アパレル部門＞

アパレル部門では、当第3四半期連結会計期間において店頭でのセット販売強化、グループ会社との共同企画キャンペーンの実施、EC取扱店舗の拡大等を実施いたしました。

一時的に消費税増税の反動があったこと、暖冬の影響により重衣料の販売が低調に推移したこと等から、部門売上高は前年同期比91.4%、部門利益は△183百万円（前年同期は23百万円）で推移いたしました。

これらの結果、レディースサービス事業全体では、売上高は41,333百万円（前年同期比0.7%減）セグメント利益289百万円（前年同期はセグメント損失947百万円）、EBITDA2,623百万円（101.9%増）となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、非連結子会社であった株式会社イナンナを連結の範囲に加えたため、報告セグメント「レディースサービス事業」に含めております。

2) その他事業

その他の事業では、外部顧客向けマーケティングサービス及びグループ内WEB広告サービス、システム開発、人材派遣等を行っております。前第3四半期連結会計期間においてその他事業に属する一部子会社の全株式を譲渡したこと、取引先要望による突発対応の発生等により、売上高は2,738百万円（前年同期比54.7%減）、セグメント損失83百万円（前年同期はセグメント損失2百万円）、EBITDA△29百万円（前年同期はEBITDA67百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末において、資産、負債及び純資産は以下の通りとなりました。各増減要因は後述の通りであります。なお、勘定科目の名称を一部省略して記載したほか、増減要因は主なものに限定して記載しております。

	2019年 3月末	2019年 12月末	増減額	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
資産	78,511	76,995	△1,515	△1.9
負債	69,815	70,530	714	1.0
純資産	8,695	6,465	△2,230	△25.6

(資産の部)

	2019年 3月末	2019年 12月末	増減額	当第3四半期連結累計期間における主な増減内訳		
	百万円	百万円	百万円	内容	百万円	主な要因
流動資産	28,234	26,603	△1,631	① 現金及び預金	△402	商品仕入の増加、通常支出
				② 受取手形及び売掛金	2,219	物品売上の増加
				③ 商品及び製品	464	物品売上増に伴う商品の増加
				④ 未収入金	△2,329	長期貸付金への振替
固定資産	50,276	50,392	115	① 長期貸付金	1,481	未収入金からの振替
				② 繰延税金資産	△593	算出根拠の見直しによる減少

(負債の部)

	2019年 3月末	2019年 12月末	増減額	当第3四半期連結累計期間における主な増減内訳		
	百万円	百万円	百万円	内容	百万円	主な要因
流動負債	53,808	54,577	768	① 短期借入金	708	外部借入の増加
固定負債	16,007	15,953	△54	① 長期借入金	358	連結範囲の見直しによる増加
				② 長期預り金	△364	会員預り金の減少

(純資産の部)

	2019年 3月末	2019年 12月末	増減額	当第3四半期連結累計期間における主な増減内訳		
	百万円	百万円	百万円	内容	百万円	主な要因
株主資本合計	8,688	6,457	△2,230	① 利益剰余金	△2,230	親会社株主に帰属する四半期純損失の計上

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の連結業績予想を修正しております。詳細は、本日公表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,975	1,572
受取手形及び売掛金	11,934	14,154
商品及び製品	2,814	3,278
仕掛品	57	64
原材料及び貯蔵品	652	444
未収入金	9,188	6,858
短期貸付金	821	349
その他	2,014	1,849
貸倒引当金	△1,222	△1,968
流動資産合計	28,234	26,603
固定資産		
有形固定資産	8,710	8,691
無形固定資産		
のれん	25,990	25,881
その他	462	417
無形固定資産合計	26,453	26,298
投資その他の資産		
投資有価証券	1,471	1,478
長期貸付金	2,159	3,641
繰延税金資産	7,840	7,246
その他	3,777	3,382
貸倒引当金	△136	△346
投資その他の資産合計	15,112	15,402
固定資産合計	50,276	50,392
資産合計	78,511	76,995

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	857	864
短期借入金	428	1,136
1年内返済予定の長期借入金	219	162
未払金	2,672	2,898
未払法人税等	84	29
前受金	44,283	44,229
賞与引当金	302	209
返品調整引当金	251	241
ポイント引当金	43	59
その他	4,666	4,744
流動負債合計	53,808	54,577
固定負債		
長期借入金	405	763
長期預り金	15,305	14,941
退職給付に係る負債	215	194
その他	80	53
固定負債合計	16,007	15,953
負債合計	69,815	70,530
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,678	1,678
資本剰余金	7,520	7,520
利益剰余金	△510	△2,741
自己株式	△0	△0
株主資本合計	8,688	6,457
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△0	△0
退職給付に係る調整累計額	8	8
その他の包括利益累計額合計	7	7
純資産合計	8,695	6,465
負債純資産合計	78,511	76,995

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	44,877	42,207
売上原価	7,791	6,979
売上総利益	37,085	35,228
返品調整引当金戻入額	591	664
返品調整引当金繰入額	724	653
差引売上総利益	36,952	35,238
販売費及び一般管理費	37,849	35,005
営業利益又は営業損失(△)	△897	232
営業外収益		
受取利息	141	162
受取配当金	7	6
貸倒引当金戻入額	—	62
その他	98	60
営業外収益合計	247	292
営業外費用		
支払利息	62	78
貸倒引当金繰入額	80	—
その他	3	10
営業外費用合計	146	89
経常利益又は経常損失(△)	△795	435
特別利益		
固定資産売却益	1	1
移転補償金	—	21
保険差益	—	13
その他	—	4
特別利益合計	1	40
特別損失		
減損損失	34	397
貸倒引当金繰入額	713	1,070
その他	410	84
特別損失合計	1,158	1,552
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,953	△1,076
法人税、住民税及び事業税	106	27
過年度法人税等	76	—
法人税等調整額	609	1,163
法人税等合計	791	1,190
四半期純損失(△)	△2,745	△2,267
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,745	△2,267

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
四半期純損失(△)	△2,745	△2,267
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△0	0
その他の包括利益合計	△0	0
四半期包括利益	△2,745	△2,266
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△2,745	△2,266

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	レディスサー ビス事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	41,595	3,275	44,871	6	44,877
セグメント間の内部売上高 又は振替高	14	2,771	2,786	△2,786	—
計	41,610	6,046	47,657	△2,780	44,877
セグメント損失(△)	△947	△2	△949	52	△897

(注) 1. セグメント損失の調整額52百万円には、セグメント間取引消去216百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△164百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「レディスサービス事業」セグメントでの事業譲受対価の変動により、当第3四半期連結累計期間において、のれんが1,679百万円増加しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	レディスサー ビス事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	41,311	895	42,207	—	42,207
セグメント間の内部売上高 又は振替高	21	1,842	1,863	△1,863	—
計	41,333	2,738	44,071	△1,863	42,207
セグメント利益又は損失(△)	289	△83	206	26	232

(注) 1. セグメント損益の調整額26百万円には、セグメント間取引消去196百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△170百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2. セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「レディスサービス事業」セグメントでの事業譲受対価の変動により、当第3四半期連結累計期間において、のれんが1,076百万円増加しており、また、「その他事業」セグメントにおいて一部子会社にて当初想定していた収益が見込めなくなったため減損損失356百万円を計上しております。

また、「レディスサービス事業」セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間より、非連結子会社であった株式会社イナンナを、重要性が増したため連結の範囲に含めております。これに伴うのれんの増減額は、第3四半期連結累計期間において548百万円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来「メディア・コンサルティング事業」、「システム開発事業」として記載していた報告セグメントにつきましては、「メディア・コンサルティング事業」の量的な重要性が乏しくなったため、第1四半期連結会計期間よりこれらを統合し、「その他事業」として記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。